

群 教 セ	I01 - 04
	平18.238集

# 心身の発達について理解を深め 望ましい人間関係を結べる生徒の育成 — LHRにおける性教育を中心として —

特別研修員 佐山 美佳 (県立渡良瀬養護学校しろがね分校)

## 《研究の概要》

本研究は、計画的な性教育の授業を通して、生徒が心身の発達について理解を深め、相手の立場や気持ちを考えた適切な行動やコミュニケーション方法を身に付け、望ましい人間関係を結べるようになることを目指した取組である。教師間による話し合いの機会を増やし、指導体制を作っていくことで校内の性教育に対する意識が高まり、性の問題の未然防止につながるとともに、教材・教具を工夫し、指導案や指導資料をまとめることで地域の小・中学校の特別支援学級へ提示できると考えた。

### I 主題設定の理由

今年度高等部単一学級を担任し、異性に対して近づきすぎたり体に触れてしまったりするといった年齢に適さない行動が目立つ生徒が多いことに気付いた。また、各学級担任や保護者、生徒が入所している施設職員からは「異性に性的な言葉を言って喜んでいる」「性器を人前で触っていて困る」など性に関する問題が数多く出てきていた。

このような問題が起こるのは、「まだ小さいから」という感覚で周囲が接していたり、内容の扱い方の難しさから性について学ぶ機会が不十分であったりしたことが一因であると推測する。そのため、年齢に即した適切なふるまいについて学ぶ機会が少なく、本人が無意識にしまったことも、周囲の人からは誤解され敬遠される要素になってしまうと考える。

しろがね分校高等部では、それぞれの学級や日常生活の指導の中での性教育は行われているが、組織的にまだ整っておらず、中心的な推進役が明確にされていないなかったり、LHRの年間指導計画に組み込まれているが具体的な内容を示す資料が不足していたりして、実際の授業として実施しにくいという現状がある。性的な問題が起きた生徒に対しては個別に指導を行うが、問題行動が起きてから行う対症療法的指導は禁止事項から始まり単発的なことが多く、指導として十分ではないと言える。

そこで、LHRの時間を使って計画的に性教育

を設定し、日常生活の指導や各教科、生徒指導と関連付けて指導していくことで、生徒が心身の発達について理解を深め、考える機会をもつことができ、相手の立場や気持ちを考えた適切な行動やコミュニケーション方法を身に付け、望ましい人間関係を結ぶことができるようになると思った。

また、今年度授業を実施する単一学級1～3年の担任6名で「性教育ミーティング」を行い、個々の生徒の実態を考えた指導内容や方法を検討しあって授業を実施していく体制を取ることで、校内の性教育に対する意識が高まり、性の問題への未然防止につながるとともに、指導資料や指導実践をまとめていくことで、地域の小・中学校の特別支援学級へ提示できると考え、本研究主題を設定した。

### II 研究のねらい

心身の発達に対する理解を深め、望ましい人間関係を結ぶ基盤を作るために、計画的な性教育を実施することが有効であることを明らかにする。

### III 研究の見通し

1 LHRの時間を使って計画的に性教育を実施し、各教科や日常生活などで関連付けて指導することにより、生徒の性への理解が深まり、適切な行動が増え、豊かな人間関係が結べるようになる。

2 性教育ミーティングを実施し、共通理解をはかりながら授業実践を積むことで、性教育の目標と方針を明確にし、教職員に対して性教育への理解・啓発を進める。

3 教材・教具を工夫し、指導案や資料をまとめることで、校内における性教育が充実するとともに、校外への情報提供ができる。

#### IV 研究の内容

1 性教育ミーティングやアンケート、家庭や施設との連絡帳でのやりとりから、生徒の実態や課題を把握する。

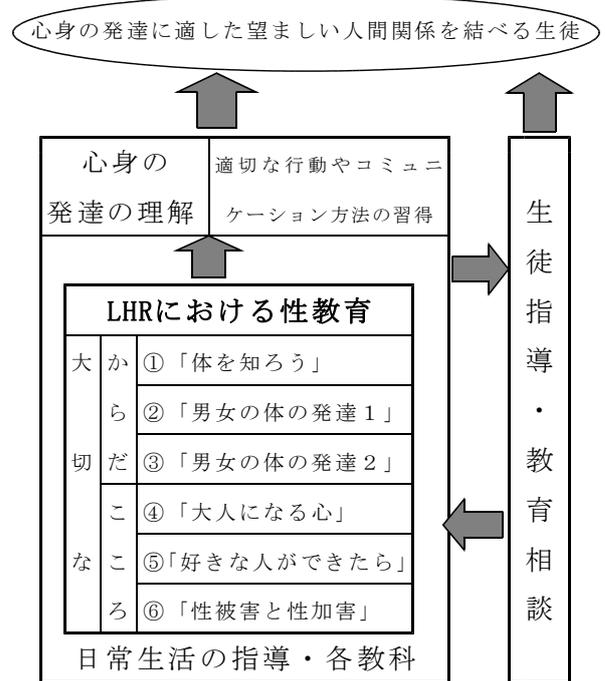
2 性教育ミーティングを実施し、LHRでの性教育の計画を立て、指導内容や指導形態を検討し、授業実践を行う。全体構想を図1に示す。

3 授業実践後、教師へのアンケートや生徒の感想文、保護者や施設職員との連絡帳でのやり取りを通して授業を評価し、教師の話合いにおいて指導計画を修正して次の授業を実施する。

4 授業実践を行った結果、生徒がどのように変容したかを考察し、性教育の在り方を考える。

5 資料の収集、指導案や教材・教具の作成を行い、性教育のための指導資料集（別紙 資料編）を作成する。

図1 全体構想



#### V 研究の計画

研究の計画については、図2のとおりである。

図2 研究の計画

月	教師との連携	家庭・施設との連携
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●性教育ミーティング（実態・課題把握・指導計画作り）</li> <li>●養護教諭との話合い、学部会での共通理解</li> </ul>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●性教育に関するアンケート実施（別紙 資料編）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●連絡帳等での要望調査</li> <li>●ケース会議</li> </ul>
8	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: center;"> <p>↓</p> <p>性教育ミーティング</p> <p>教材・教具作成</p> <p>授業実践</p> <p>評価</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>連絡</p> <p>←→</p> <p>←→</p> <p>←→</p> <p>←→</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>保護者・施設職員からの意見や要望（連絡帳・下校時・ケース会議・家庭訪問等）</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">週予定・連絡帳</p> </div>	
9		
10		
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>●性教育に関する実施後のアンケート（別紙 資料編）</li> <li>●生徒の変容を調査</li> <li>●養護教諭、学部会での検討会、次年度の計画づくり</li> <li>●評価とまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●連絡帳等で、感想や生徒の変容を調査</li> <li>●ケース会議</li> </ul>
12		

## VI 実践

### 1 実態把握と指導目標、内容の検討について

- ① 教師間の話し合いを実施し、現在抱えている課題や卒業後を見据えて指導したい内容を自由に出し合い、検討した。
- ② 保護者や施設職員に、連絡帳やケース会議を通して、生徒の実態や扱ってほしい内容を調査した。

### 2 授業実践

体の変化について関心を持ち、正しい知識を得

るため、指導時数6時間のうち3時間を使って、「身体的側面」から授業実践を行った。計画では第4時は「大人になる心」であったが、教師の話し合いの中で、冬季休業前ということと「大人になる心」「好きな人ができたら」は期間をあけず実施した方が良いという結果になり、第6時の「性被害と性加害」について先に実施した。

J男は入学当初から、入所している施設及び学校の双方から性的な面での課題があげられ、全体での指導とともに、個別の指導が必要であると考えられていた。そこで、学級全体の変容と合わせて、J男の変容に焦点を当てて研究を進めた。

#### (1) 題材名と目標

月	題材名	題材の目標 ※ ●はJ男の重点目標と重なるものである。
6	1 「大切な体を知ろう」 ※授業実践の記録	●体の部分の適切な用語を知り、使うことができる。 ○男女の体の同じところと違うところに気付く。 ●体は大切なものであることを知り、清潔にするための大切さを理解する。
9	2 「男女の体の発達①」	○男女の体の発達の仕組みを知る。 ●成長には個人差や男女差があることを知り、大人になっていく自然なでき事であると認めることができるとともに、大切な体であることに気付く。
	3 (男女別) 「男女の体の発達②」	○性器の構造や働きについて知り、自己の性意識を確かにし、異性に対する理解を深める。 (男子) ●夢精やマスターベーション時の適切な処置の仕方を知り、自他共に気持ちよく過ごせる方法を考える。 (女子) ○月経時の手当の仕方や生理用品の保管と携帯の仕方を知り、自他共に気持ちよく過ごせる方法を考える。
12	4 (男女別) 「性被害合わないために、加害者にならないために」(男子) 「自分を守ろう・大切にしよう～誘いに乗らない、いやなことはことわる～」(女子)	○世の中には、誘拐したり性的ないたづらをしたりする悪い人たちがいることを知り、誘われた時に身を守るための行動や、被害にあった時の対応を身に付ける。 (男子) ●興味本位やふざけた気持ちでも、相手が嫌な思いをすれば加害者になることに気付き、気をつける気持ちをもつ。
2	5 (男女別) 「大人になる心～異性への接し方」	○大人になるにつれ、異性への接し方が変わってくることを知る。 ○適切な異性との接し方や距離について知り、身に付けられるようにする。
	6 (男女別) 「好きな人ができたら」	○異性を想う気持ちが起こるのは自然なことであると認めることができる。 ●相手に対して「好き」という思いを適切に表現し、思いやりをもつことの大切さが分かる。

#### (2) 題材の評価項目(別紙 資料編)

(3) 授業実践の記録 (第1時)

主な学習内容	生徒の反応・つぶやき	教師の支援及び留意点
<p>ねらい 男女の体の違いに気付き、体の適切な名称や役割について理解できるようにする。</p>		
<p>・男女の違いに気付き、体の名称の適切な用語があることを知る。 「胸」「性器」</p> <p>・性器の役割を知り、大切なものであることを知る。</p>	<p>裸だ！恥ずかしい。</p> <p>男の子は乳首、女の子は乳首って言わない。 心臓。おっぱい。</p> <p>男の子にはおちん。女の子おちんはありません。 女の子はおまた</p> <p>赤ちゃんができるところ！</p>	<p>・初めは服を着た絵を用意し、だんだん服を取っていき、視覚的にとらえやすいようにする。</p>  <p>写真1 男女の体の違い</p> <p>・照れてふざけたりしてしまったり騒いだ場合にも叱らず、きっかけとして話を進める。</p> <p>・体の名称について俗語表現をした場合でも否定せず、適切な呼び方を知らせるようにする。</p> <p>・性器の役割については、「赤ちゃんを作る」ための器官であることを説明し、詳しい内容よりも大切な部分という印象をもてるようにする。</p> <p>・子宮や妊娠などについてふれる生徒がいた場合は、発言のひとつとして受け入れ、後日詳しく勉強することを説明する。</p>
<p>ねらい 清潔にすることの必要性や、体は大切なものであることに気付くようにする。</p>		
<p>・体の中の汚れやすい部分を考え、ばい菌カードをはる。</p> <p>・きれいにしていく過程をみながら、性器を洗うときの注意点を知る。</p>	<p>トイレをしたらオマタをふく → 性器をふく 性器、わきの下、へそ (女子) 胸の下</p> <p>やさしくゆっくり洗う。</p> <p>・体の各部分が洗われて、きれいになると拍手が起こった。</p>	<p>・不潔にしておくとも病気になることを知らせる。</p> <p>・ヒントとして、肌がくっついていたりところや洗いづらいところは汚れやすいことを説明する。</p> <p>・担任が入り、話しやすい雰囲気をつくる。</p> <p>・性器の部分に来た時に、再度大切などころであることを確認し、やさしく丁寧に洗うことを気付けるようにする。</p>
<p>・性に関することについて相談できる人を知り、適切なふるまいについて約束する。</p>	<p>《約束》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気になったり聞きたいことがあったりするときは、同性の先生（大人）に聞く。</li> <li>・大きな声で話したり、人をからかったり、ふざけたりしない。</li> </ul>	

### 3 評価について

- ① 授業実施後、生徒の感想用紙（別紙資料編）を作成し、実施した。
- ② 保護者や施設職員と、連絡帳やケース会議を通して授業に対する感想や生徒の変容について調査した。
- ③ 指導担当教師、養護教諭、学部主任、授業を参観した教師に授業後のアンケート（別紙資料編）を作成・実施し、意見や感想、生徒の反応や次時の留意点などを調査した。
- ④ 授業をビデオに記録し、生徒のつぶやきや反応を観察した。
- ⑤ 日常生活での様子や変容を担当に観察・記録してもらった。

## Ⅶ 結果と考察

### 1 授業実施後の教師アンケートより

予想以上に生徒の反応があり、興味をもつてのぞんでいる生徒が多かった。回を重ねるごとに恥ずかしがらずに発言できる生徒が増えていき、性について恥ずかしいことではなく、自分の体や心のこととして受け止められるようになってきたと言える。少人数や同性同士での授業では、ふだん発言しない生徒からも意見が出るとともに、教師側も実態を把握しやすかった。生徒の実態や内容に合わせた指導形態や、座席の工夫が必要であると言える。また、言葉だけの説明では理解することが難しく、授業の集中が切れてしまうことが予想されたため、視覚的な教材を多く取り入れるとともに、ロールプレイを授業に取り入れるようにした。その結果、生徒は興味をもって授業を聞き、自分のこととして考えたり、生き生きと活動する場面が多く見られたりした。

授業の内容については、性教育ミーティングで決定したことで、実際行ってみると課題は多く出され、特に「どこまで深く触れるか」という点でどの教師も迷っていた。指導内容や方法について、担任一人の判断で決めるのではなく、保護者などの意見を取り入れながら、養護教諭や複数の教師がチームを作って生徒の実態に合った内容を検討・決定していかなければならない。今回の実践も性教育ミーティングを多く実施したことで、今までは性的問題についてどう指導すればよいか一人で考えていたが、相談しやすい雰囲気が出たという意見が出された。学級を越えて生徒の実

態を知ることでもでき、一人の生徒に対して多くの教師が統一した指導体制を取ることもできた。

今後の課題は多くあるものの、指導に当たった教師全員から「今後も性教育は必要。やっぴいこう」という意見が出された。

#### 《生徒の反応について》

- ・教師の質問に素直にまじめに反応できていた。
- ・興味をもって全員が話を聞き、授業に参加していた。
- ・良い発言ができた生徒が多かった。
- ・「高校生の呼び名＝性器」がすんなり入っていた。
- ・（第2時では）前回よりもいろいろな子が発言していた。照れが少なくなった。前回の内容を比較的多くの生徒が覚えていた。
- ・ロールプレイ中心の授業では、普段は大きな声を出さない子が声を出せていてびっくりした。生徒の考える場がたくさんあって良かった。
- ・意外な生徒が発言しているのが驚きだった。
- ・生徒の反応が自分のこととして捉えられていた。
- ・恥ずかしそうにしている生徒も、周りの生徒の発言で自分のことを少しだけ言えた場面もあった。その後発言が増えてきた。

#### 《授業の内容、教師の取組について》

- ・視覚的な教材は分かりやすい。
- ・相談する相手について触れたのがよかった。
- ・命をはぐくむことの重要性にももう少し触れてはどうか。
- ・結婚、出産については現実的な問題があるが・・・。
- ・身近な内容、具体的な話をする必要があると思うが、一方で難しい内容も伝えておかなければならないと感じる。
- ・「体の変化」から「赤ちゃんを作る準備」にうつるところが生徒には難しかったと思う。
- ・今後も教師間の協力が重要。
- ・少人数、男女別での授業だったので、生徒が意見を言いやすい雰囲気になった。全体のときよりも個々が発言できていた。生徒一人一人の実態をより深く知ることができてよかった。
- ・もっと生徒の実態を生かした授業にすればよかった。座席の工夫も必要だった。
- ・以前からほかの指導と切り離してやってほしいと考えていた。ぜひ定着してほしい。
- ・行事が重なったりして難しく、定期的には実施できたらもっと効果的だったように思い残念であった。

## 2 生徒の課題と変容

授業開始前のアンケートや保護者・施設職員の連絡では、14名中10名が性についての問題を抱えていた。性教育の授業や実施後の日常生活での指導後、現在7名に変容が見られている。性教育を授業として扱ったことで、本人には変化がなくても、性に関することについて家庭や施設職員と話すきっかけとなり、協力体制で指導しやすくなった例がみられた。また、授業で扱ったことで、興味本位に大声で発言してしまったという問題もあったが、担任からは「今までは『ダメ』と言うしかなかったが、『きちんとした言葉（胸）があるよね』など具体的に指導しやすくなった。」という意見を聞くことができた。同性の教師や施設職員に自分の体のことを相談する生徒も見られるようになった。

J男については、入学してまもなく「オムツに性的な関心があり、身近にあると盗んでしまう」

「自分のマスターベーションについて女性に話して喜んでいる」などの問題行動があげられていた。また、今年度施設職員から「マスターベーションで汚れた下着をタンスの奥にしまいこんでしまう。」という課題も出された。性教育を実施するに当たり、施設職員との連絡を密に取り、授業で行ったことを施設へ連絡して指導の統一をはかるようにした。J男自身も性教育の授業は関心が強かったようで、終始真剣に聞く様子が見られた。回数を重ねる中で、発言や自分の体験をオープンに話す様子も増えていった。施設では汚れた下着をそのままにすることはほぼなくなり、学校でも女性に性的なことを言うことはなくなった。しかし、母親との面談で、家庭ではまだオムツへの関心を示す様子が見られるということであった。今後、卒業後のことを考え、学校や施設での支援方法を家庭へ具体的に伝えるようにしていきたい。

### (1) 全体の変容

	気になっていること	性教育実施後の様子
A男 B男 C女 D男	・性的な言葉を繰り返し言ったり、時や場所に関係なく質問をしたりしてしまう。	・授業直後、施設で大声で「おっばい」と言っていた。指導後は、言う回数が減ってきている。時間が経過すると忘れてしまう傾向がある。性教育の授業の学習態度が回を重ねるごとに良くなった。(A男) ・A男の発言が減ったことで、学校での発言が減った。(B男) ・性的な発言は減っていないが、教師の対応として「性教育をしたよね」という話ができ、指導しやすくなった。(C女) ・生徒指導とあわせて指導してきたことで、状況や相手に応じた言動ができるようになってきている。(D男)
E男	・性的な内容に触れることを拒否し、自分の体のことなど素直に表現したり相談したりすることができない。	・性教育の授業では、だんだん自分の考え方など発表できるようになってきた。授業以外で自分のことを相談したり、素直に話したりすることはまだ難しい。
F男 G女	・人に対する距離が近く、異性に対しても近づきすぎたり体に触れてしまったりする。	・マスターベーションのことや性器が気になったことなど男性教師に相談するようになった。(F男)
H女	・無意識に性器に触れてしまう。	・特に変容は見られなかった。
I男	・人前で性器に触れてしまう。 ・家族の通る部屋でのマスターベーション。 ・インターネットで性的な画像を見ている。	・保護者との連携がとれ、自室にパソコンを入れてもらい、マスターベーションは「自分の部屋で」「ひとりで」という習慣を作ることができた。以前はどうかと不安だった保護者も、相談していく中で「マナーを守ってすれば良い、当たり前のこと」と前向きにとらえられるようになってきて、学校だけでなくヘルパーの方にも相談することができている。

(2) J男の変容

《気になっていること・課題》

- ・マスターベーションで汚れた下着を処理せず、タンスの奥に入れたままのことがある。
- ・オムツに興味があり、女性に対して自分のマスターベーションについて話をしてしまう。

月	指導の内容	生徒の様子
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に担任（男性と女性）が指導。 ←</li> <li>・女性の担任からは、言われた時の気持ちや、言った人のことをどう思うか、嫌いになってしまうことなどを話した男性の担任からは、社会に出てからどうなるのか、犯罪になってしまうことなどを説明し指導した。</li> <li>・入所している施設へも連絡。 →</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任（女性）に自分のマスターベーションについて話をしてくる。</li> <li>・反省している様子であった。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性教育「大切な体を知ろう」実施。 →</li> <li>・実施後、性的なことを異性に話すのは良いことかどうか、話したいときは同性に話すことを確認した。</li> <li>・生活単元学習で「入浴の仕方」を学習する際に性教育の内容を踏まえながら性器の洗い方と汚れた下着の始末について学習した。 →</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言は少なかったが、真剣に授業を聞いていた。オムツやマスターベーションのことを相談する人として、具体的に男性の担任や施設職員の名前をあげられた。</li> <li>・「(性器は) 大切な場所」「清潔にする」などの発言が出た。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚れた下着の処理の仕方とすぐに片付けることを確認した。 ←</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(施設職員より) 汚れた下着を隠しておくことは減ってきたが、忘れてしまうのか、まだ時々ある。オムツが目につれないよう注意をしているので、話すことは少なくなったが、女子職員には何か(性的なこと)話したそうにしている。</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みの様子など受容的に聞くようにし、気になることがあったら担任（男性）に話すこと、もし女性に性的なことを話してしまった場合にどうなるか（相手の気持ちや自分の立場など）確認した。 →</li> <li>・性教育「男女の体の発達①」実施。 →</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み明け、隣のクラスの女性教師に、性的なことを話したい様子が見られた。</li> <li>・女性教師に話すことはなかった。</li> <li>・(感想文) 子どもから普通に生きていても大人になるといろいろな場面で変わったりするんだと感じた。性器に毛が生えたりするのはもう大人の準備が始まっているんだと思いました。</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性教育「男女の体の発達②」実施。 →</li> <li>・授業後、汚れた下着をどうしているかたずねた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大丈夫です。まるめて・・・(汚れ物用) バケツに入れてます。」の返事があった。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設職員より聞いたことを話し、賞賛した。 ←</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(施設職員より) 下着を放置することはほとんどなくなった。きちんと処理できたときには、男性職員に報告してくるようになった。施設でおむつを見ても、盗んだり話を始めたりすることもなかった。</li> <li>・笑顔が出てうれしそうにしていた。「性的なことを話したくなったら？」の質問に、「男の人に話します。」と答えた。</li> </ul>

12	<ul style="list-style-type: none"> <li>性教育「性被害にあわないために加害者にならないために」の授業実施。授業後、女性に対して最近性的なことを話したかどうかたずねた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「大丈夫です。」とはっきりと答えていた。学校でもオムツの話やマスターベーションについて話すことはなくなった。</li> <li>(感想文)・・・何か悩みがあったらすぐ先生に聞きたいと思います。社会でもやっぱり同じだと思いました。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後にむけての進路指導の中で、好きな人ができたときやオムツについて話をしたくなってしまったらどうするかについて話し合った。具体的な相談相手（通勤寮職員、学校）を提示した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな女性ができることについてはまだ現実的に考えられない様子であった。オムツについては「言うてはいけない」「我慢する」などの発言が出た。解決方法について考えることは難しかったが、具体的な方法や相談する人についての話は真剣に聞き、頷いていた。</li> </ul>

## Ⅷ 今後の課題

### 1 性教育ミーティングについて

生徒の実態をつかみながら進めていった性教育ミーティングは、予想していた以上に検討が必要であった。全員集まるには時間がなかなか取れず、授業実践が大幅に遅れてしまった。会議をしなくても意見交換ができたり、パソコンのサーバを使ったりしながら情報を共有できる方法を考えていきたい。また、定期的に話し合う機会を設定するために、校内研修の研修グループの中に性教育を取り入れてもらえるよう研修部に提案したいと考える。

### 2 計画的、組織的な指導体制について

今年度は高等部単一学級担任が中心となり、養護教諭と学部主任に助言していただきながら学部へ報告をしている。今後はより具体的な内容が伝わるよう授業を撮影したビデオを見てもらう機会を作りたい。教師の事後アンケートでも、「今後は計画的に進めたい、定期的の実施したい」「他学部部との連携を取りたい」「単一だけでなく重複の生徒への性教育も実施したい」などの意見が多く出されている。しかし、一部の職員で進めていくには限界があり、次年度職員が変わったときに同じように継続・発展していくには不安が残る。学校全体で性教育を計画・実践できるよう、生徒指導部や保健部と連携をとり、具体的な年間指導計画を作成するとともに、指導資料の充実を図っていく必要があると考える。教材・教具の保管場所なども考え、全員が使いたいときにすぐに使用できる体制を作っていきたい。

### 3 保護者への情報提供について

生徒の変容や学校生活での様子は、連絡帳などで個々に伝えることができたが、授業内容や授業の全体の様子について保護者や施設職員に対する情報提供の手段が少なかった。家庭や施設でも性について話合う機会がもて、より同一歩調で指導を進めていけるよう、写真などを活用して保健だよりにも内容を載せてもらったり、単独にたよりを作ったりするなど工夫していきたい。

(担当指導主事 中村 健)

#### Web検索キーワード

【特別支援教育 性教育 教材・教具 LHR】

#### <参考文献>

- ・大井 清吉、山本 良典 編 『ちえおくれの子の性指導』 福村出版(1989)
- ・谷澤 桂子 著 『小学校でおさえおきたい性の授業』 明治図書(1989)
- ・新牧 賢三郎 著 『誰にでもできる性教育のポイント』 明治図書(1989)
- ・北沢 杏子 著 『知的ハンディをもつ人々への性教育・エイズ教育』 アーニー出版(1996)
- ・教育技術MOOK『だれにでもできる性教育』 小学館(2003)